

2021年1月5日・6日

『隠州視聴合記』と『改正日本輿地路程全図』における「竹島」の記述・描写に関する私見 補遺9

嶋尾 稔

1903年に竹島「侵略」の準備のために日本の陸軍と海軍が協力して蔚陵島と竹島の調査を行ったことを示す資料を韓国の学者が発見したと『ハンギョレ』紙が紹介している。その学者は、その調査において竹島が鬱陵島の附属島と位置付けられていると指摘しているとのことである。

「日本軍部、独島の侵奪を日露戦争前から準備していた」

1/4(月) 9:09

the Hankyoreh

Yahoo!Japan ニュース

<https://news.yahoo.co.jp/articles/7dbf05f7b3b10cc026e3352750d0ce5e776c797f>

使われている資料はすべてアジア資料センターのアーカイブで見ることができるが、資料の内容を完全に捻じ曲げていることは明々白々である。あまりにもバカバカしいので、以下ややぞんざいに論じることをお許しいただきたい。もとの資料を見ていただければ一目瞭然なのだ。

韓国の学者は、1903年の10月3日～5日に、軍艦済遠が鬱陵島と竹島の調査を行い、それに陸軍の釜山駐劄隊の少尉が参加したと述べているようだ。全く違う。済遠は10月8日と9日に鬱陵島を調査しただけである。釜山駐劄隊の少尉は10月3日から参加するつもりであったが、結局参加をキャンセルしている。それだけのことである。

「軍艦和泉、千早、筑紫、済遠、高砂、高千穂、宮古、秋津洲、千代田、大島、愛宕、鳥海、宇治、浪速、清韓警備派遣並帰朝命免（4）」 C06091468100 pp.31-33(pdf ファイルの頁)

「朝鮮に関する報告（3）」 C09050500100 pp.2-3

「10月8日 釜山駐劄隊 釜山駐劄隊報告」 C10071713100 pp.1-2

「11月20日 釜山駐劄隊 釜山駐劄隊報告」 C10071713700 pp.1-2

この調査は竹島とは全く関係が無い。

この学者はさらにこれに先立つ同年 6 月の海軍大演習の資料を紹介している。これも竹島侵略の準備であるという解釈がなされているようであるが、全くそういうものではない。しかし、これはとても重要な資料である。対露戦に備えて日本海軍が蔚陵島―竹島―隠岐海域で大々的な演習を行っている（そして陸軍の砲兵大尉が陪観している）ことがこの資料から知られる。当然ではあるが、日本海軍はこの海域について既に熟知していた。いまさら調査をする段階ではないのだ。おそらくこの海域について曖昧な情報しかもっていなかったであろう同時代の韓国とは違うのだ。その演習図において、竹島は「リアンコルド岩」と記されている。国際的な海図や水路誌に記されているとおりである。この図から領土意識を読みとることは難しいが、蔚陵島の付属島という位置づけがなされているわけではないことは明らかである。

「第 1 2 師団 海軍大演習陪観の件 報告」 C03022786700 図は p.39

同 31 頁には「隠岐リアンコルド岩鬱陵島及ヒ之ヨリ朝鮮西岸に渉ル包围線」とある。ここにも鬱陵島とリアンコルド岩を関係づける情報はない。むしろ国際的な海図上の岩礁として指示していると見るべきであろう。